

## スポーツ医学学位プログラム（3年制博士課程）

Doctoral Program in Sports Medicine

- 博士（スポーツ医学）
- Doctor of Philosophy in Sports Medicine

## 人材養成目的 / Program Educational Objectives

スポーツ医学に以下の観点から貢献でき、国際的にも通用する研究者や高度専門職業人及びこれらの人材を育てることのできる大学教員を養成する。

- 競技スポーツにおいて、科学的な見地から競技者の競技力向上に貢献できる人材。
- 生活習慣病や老化の予防を科学的見地から評価し、健康の維持・増進や疾病の予防・改善に貢献できる人材。

<b>養成する人材像</b>	スポーツと健康、競技者の競技力向上、外傷と障害及び疾病の予防に関する基礎知識を有し、これを基盤としてスポーツ医学に関する研究能力を高めようとする意欲を持ち、競技スポーツ支援や健康スポーツなど各種の関連領域で活躍できる人材。
<b>修了後の進路</b>	大学教員に加えて、行政機関や産業界において、スポーツ振興をグローバルな視点で推進する研究者や指導者。

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学大学院学則及び関係規則に規定する3年制博士課程の修了の要件を充足したうえで、次の知識・能力を有すると認められた者に、博士（スポーツ医学）の学位を授与する。

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
知識・能力	1. 知の創成力：未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	①新たな知の創成といえる研究成果等があるか ②人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	博士論文研究指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、博士論文作成、論文発表、学会発表など
	2. マネジメント能力：俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	①重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ②専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	スポーツ医学セミナーⅢ、博士論文研究指導Ⅰ、研究計画発表会、論文予備審査会など
	3. コミュニケーション能力：学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	①異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ②専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えとともに、質問に的確に答えることができるか	博士論文研究指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、研究計画発表会、論文予備審査会、学会発表など
	4. リーダーシップ力：リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	①魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ②目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	スポーツ医学セミナーⅢ、博士論文研究指導Ⅰ、研究計画発表会、学生主体による行事など
	5. 国際性：国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	①国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ②国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	スポーツ医学セミナーⅢ、博士論文研究指導Ⅰ、大学院共通科目（国際性養成科目群）、国際学会発表、英語論文発表など
	6. 研究力：スポーツ医学の独創的な研究を独自に行える能力	①スポーツ医学の独創的な研究成果等があるか ②スポーツ医学の発展に貢献することが期待できるか	スポーツ医学セミナーⅠ、Ⅱ、博士論文研究指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、博士論文作成、論文発表、学会発表
	7. 専門知識：スポーツ医学に関する先端的かつ高度な専門知識と運用能力	①スポーツ医学に関する先端的かつ高度な専門知識はあるか ②スポーツ医学に関する研究成果等があるか	スポーツ医学セミナーⅠ、Ⅱ、博士論文研究指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、博士論文作成、論文発表、学会発表

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
知識・能力	8. 倫理観：研究者 または高度専門 職業人にふさわ しい高い倫理観 と倫理的知識	①高い倫理観と倫理的知識のもとに研 究に取り組むことができるか ②誠実で責任ある研究活動ができるか	スポーツ医学概論Ⅰ、Ⅱ、博士論文研 究指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、博士論文作成、論 文発表、学会発表
	9. 学際性：スポー ツ医学の学際的 な特徴を存分に 発揮する能力	①スポーツ医学の学際的な特徴を發揮 した研究に取り組むことができるか ②学際性のあるスポーツ医学の研究成 果等があるか	スポーツ医学概論Ⅰ、Ⅱ、スポーツ医 学セミナーⅢ、研究計画発表会、博士 論文作成
学修成果の 評価に関す る方針	<p>学修成果の評価は「達成度評価表」に基づく達成度評価によって以下の段階毎に学位授与の方針に基づ くコンピテンスの修得状況を客観的に確認し評価する。達成度評価の段階・方法を以下に示す。</p> <p>学修成果の評価は、学位授与の方針に基づくコンピテンスの修得状況を「達成度評価表（ルーブリック）」 により、確認・評価をすることで行う。</p> <p>評価の対象と方法：コンピテンスの評価は、履修科目の成績だけでなく、研究報告会、口頭試問、日常 的な研究活動、および研究成果（学会発表、論文掲載）に基づき行う。</p> <p>評価の時期と体制：学位取得までに4段階（研究計画発表会、中間報告会、予備審査会、本審査会）実 施する。指導教員による評価に加え、最終試験においては指導教員と副指導教員が連携し、達成度評価 表に基づき審査を行い、教育会議において全教員で最終達成度審査を行う。</p>		
学位論文に 関する評価 の基準	<p>筑波大学大学院学則に規定された要件を充足した上で、学位論文が下記の評価項目について妥当と認め られ、かつ、最終試験で合格と判定されること。</p> <p>（評価項目）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関連分野の国内外の研究動向及び先行研究の把握に基づいて、スポーツ医学分野における当該研究 の意義や位置づけが明確に述べられていること。</li> <li>2. スポーツ医学分野の発展に寄与するオリジナルな研究成果が、博士論文に相応しい量含まれている こと。</li> <li>3. 研究公正についての十分な知識に基づき、研究結果の信頼性が十分に検証されていること。</li> <li>4. 研究結果に対する考察が妥当であるとともに、結論が客観的な根拠に基づいていること。</li> <li>5. 研究の背景、目的、方法、結果、考察、結論等が、スポーツ医学分野の博士論文に相応しい形式に まとめてあること。</li> </ol> <p>（審査体制、審査方法等）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 博士論文が完成した後、予備審査を行い、学位論文を評価し、最終試験に進めるか否かを審査する。</li> <li>2. 最終試験は、学位論文の提出とそれについての質疑応答を行い、主査（主指導教員以外）及び2名 の副査に加えて、本学位プログラム担当教員以外の教員が少なくとも1名加わった審査委員会で行う。</li> <li>3. スポーツ医学の分野において、博士の学位に相応しい成果が得られ、相応しい体裁にまとめられて いることを合格の基準とし、審査は公開で行う。</li> </ol>		

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

スポーツ医学の基礎となる基礎的知識・能力、汎用的知識・能力、倫理観を養うとともに、既成の分野では包括できないカリキュラムを体育系、医学医療系及び人間系に所属する教員が担当し、スポーツ医学の広範囲なカリキュラムを編成することで、スポーツ医学に関する研究を自立して行うために必要な高度の研究能力を養う教育・研究指導を行う。

<p><b>教育課程の編成方針</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 学生の専攻分野を軸として、関連する分野の基礎的素養や広い視野、汎用的知識・能力の涵養に資するよう、研究群共通科目、学術院共通専門科目、大学院共通科目から数科目を履修することを推奨する。</li> <li>- スポーツ医学の広範囲な領域における知識や研究方法論を学ぶ基礎科目を配置する。また、最先端のスポーツ医学研究や研究手法を学ぶ専門科目を配置する。</li> <li>- 「スポーツ医学概論Ⅰ・Ⅱ」により、スポーツ医学の基礎的な知識と研究方法論を学び、学際性や倫理観を身に付ける。</li> <li>- 「スポーツ医学セミナーⅠ・Ⅱ」により、最先端のスポーツ医学研究の研究手法を学び、研究力と専門知識を身に付ける。</li> <li>- 「スポーツ医学セミナーⅢ」では、国内外で活躍する研究者から、最先端のスポーツ医学研究やキャリアパス形成について学び、マネジメント能力、リーダーシップ力、国際性、学際性を身に付ける。</li> <li>- 「博士論文研究指導Ⅰ」により、博士論文作成の基礎を学び、知の創成力、マネジメント能力、コミュニケーション能力、リーダーシップ力、国際性、研究力、専門知識、倫理観を身に付ける。</li> <li>- 「博士論文研究指導Ⅱ・Ⅲ」により、博士論文作成に必要な高度の知識や研究手法などを学び、知の創成力、コミュニケーション能力、研究力、専門知識、倫理観を身に付ける。</li> <li>- 国内外における学会発表により、知の創成力、コミュニケーション能力、国際性、研究力、専門知識、倫理観を身に付ける。</li> <li>- 学術誌における論文執筆により、知の創成力、国際性、研究力、専門知識、倫理観を身に付ける。</li> <li>- 学位取得予定者の博士論文発表会等を企画、運営することにより、リーダーシップ力、マネジメント能力、コミュニケーション能力を身に付ける。</li> </ul>
<p><b>学修の方法 特色的な教育</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 1年次では、スポーツ医学に関連する基礎的知識・能力、汎用的知識・能力、倫理観を学ぶとともに博士論文の計画を立案し、研究に着手する。2年次以降は、より専門的にスポーツ医学を学ぶと共に研究を進める指導を行い、学会発表や学術誌における論文発表を積極的に行う。</li> <li>- 1年次に基礎科目である「スポーツ医学概論Ⅰ・Ⅱ」を履修し、スポーツ医学の基礎的な知識と研究方法論を学ぶ。</li> <li>- 1年次に「博士論文研究指導Ⅰ」を履修し、博士論文の計画を立案する。また、当該科目では、博士論文の研究計画を発表し、指導教員より研究指導を受ける。</li> <li>- 1・2年次では、「スポーツ医学セミナーⅠ・Ⅱ」を履修し、最先端のスポーツ医学研究や研究手法を学び、各自の研究に生かす。</li> <li>- 1・2・3年次において、「スポーツ医学セミナーⅢ」を履修し、最先端のスポーツ医学研究に加え、キャリアパス形成についても学ぶ。</li> <li>- 2・3年次における「博士論文研究指導Ⅱ・Ⅲ」では、博士論文の研究指導を指導教員より受ける。</li> </ul>

### 入学者受入れの方針 / Admission Policy

<b>求める人材</b>	スポーツと健康、競技者の競技力向上、外傷・障害予防及び疾患の予防に関する知識を有し、これを基盤としてスポーツ医学に関する研究能力を高めようとする意欲を持ち、競技スポーツや健康スポーツなどの関連領域で活躍できる人材を求める。
<b>入学者選抜方針</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 入学試験では、英語能力とこれまでに行った研究及び研究計画についてのプレゼンテーションにより、スポーツ医学の知識や学習意欲を総合的に評価する。</li> <li>- 社会人のための特別な入学試験や科目履修のための配慮は行わないが、社会人は一般的に学習意欲や問題意識に富んでおり、積極的に受け入れる。</li> </ul>

### 学修支援体制 / Learning Support Framework

<b>学修支援</b>	指導教員による個別研究指導、論文執筆の添削、および学会発表に向けたプレゼンテーション指導を行う。また、英文校正や文章作成サポートの支援やキャリア面談を通じて、学習目標の設定や学習管理に関する助言を提供する。学位プログラムの修了生を招聘しての研究とキャリア支援、交流の両面を目的としたセミナーを開催している。
<b>学生同士の交流機会</b>	定期的に研究発表会を開催し、学生が自身の研究成果を共有する機会を提供する。発表後の質疑応答や、他領域の学生からのフィードバックを通じて、新たな視点を得ることで研究の質を向上させる。また、指導教員や大学の枠を超え、異なる指導教員の学生や他大学の学生と交流する機会を設けている。
<b>教員との交流機会</b>	学生が気軽に研究の相談や質問を行えるように教員ごとにオフィスアワーを設けている。また、指導教員と学生は、研究の進捗状況の確認に加えて、学修やキャリアパスに関する相談する機会として、定期的にミーティングを実施している。学位プログラム全体で定期的な研究進捗報告会を開催し、学生が自身の研究内容を発表する機会を提供し、他領域の教員との交流を図っている。

### 教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

教育課程委員会において、学生の学修成果に関する評価を行い、教育課程の妥当性や指導の適切性を検証する。また、教育課程委員会と研究促進委員会で合同委員会を設置し、教育活動全体に対する点検と改善を継続的に実施することで、教育の質を保証し、学位プログラムの目的達成に向けた体制を強化する。